

身につけるべき学士力調査

目的

学士力の基礎資料を得る。

対象

2024年の卒業生の状態を把握するために、学士力アンケートの分析をおこなった。対象は、心理専攻 72 名、こども保育・教育専攻 139 名、モチベーション行動科学部 55 名である。

学士力を尋ねる項目に対して、「1:とても少ない」「2:少ない」「3:どちらともいえない」「4:多い」「5:とても多い」の5件法で回答を求めた。以降、汎用的スキルと専門的スキルのそれぞれについてまとめている。

結果と考察

汎用的スキル

主な結果としては以下のとおりである。

全体として特に多いという回答であったのは、「相手の意見を丁寧に聞くことができる(4.3)」「意見や立場の違いを理解し、受け入れることができる(4.2)」「他者と協調して行動できる(4.2)」「自分と周囲の人々や物事の関係性を理解できる(4.1)」「自己の良心及び法規・社会のルールに従って行動できる(4.1)」であった。つまり、他者の理解に関するスキルと良好なコミュニケーションスキルについて獲得できていると認識していることが読み取れる。

また、これらは特定の専攻や学部だけではなく、全学部専攻に共通して大きい値であった。このことから、学部の特色などは小さくなく、比較的均一であり、4年間の成長によってそれぞれ学習や経験によって特化していくものではないことが示唆された。

専門的スキル

主な結果としては以下のとおりである。

心理専攻においては、「行動や感情の自己管理ができる。(4.1)」「子どもの多様な発達プロセスを科学的にとらえることができる。(4.0)」「心理学的な枠組みで人間の心の働きを理解できる。(4.0)」「他者の立場を理解し、尊重しつつ、自分の意見も主張できる(4.0)」「状況に応じた社会的スキルを身につけている。(4.0)」が大きい値であった。自己制御や、心理学的・科学的観点から物事を理解すること、そして、対人スキルについて、獲得できていると認識していることが読み取れる。

こども保育・教育専攻においては、突出したものは確認できなかったが、「子どもの行動に対して、すばやく応じることができる。(3.9)」「組織内外の人たちと連携・協業(協働)で

きる。(3.8)」が大きな値であり、子どもへの対応や他者との協業におけるスキルを獲得できていると認識していることが読み取れる。

モチベーション行動科学部においては、「客観的な視点で人間行動を理解し分析できる。

(4.2)」「他者を肯定的に理解することができる。(4.2)」「人間の成長発達を理解できる。

(4.1)」「対人コミュニケーション理論にもとづいたコミュニケーションができる(4.0)」の値が大きく、科学的な人間理解やコミュニケーションといったスキルを獲得できていると認識していることが読み取れる。

表1 各専攻や学部における汎用的スキルの記述統計量

| | 全体 | | 心理専攻 | | こども 保育・教育専攻 | | モチベーション 行動科学部 | |
|--|-----|------|------|------|----------------|------|------------------|------|
| | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 文化・社会と自然に関する知識を理解できる。 | 3.6 | 0.87 | 3.7 | 0.86 | 3.5 | 0.88 | 3.7 | 0.84 |
| 意見や立場の違いを理解し、受け入れることができる。 | 4.2 | 0.81 | 4.2 | 0.73 | 4.1 | 0.87 | 4.3 | 0.74 |
| 卒業後も自律・自立して学習できる。 | 3.8 | 0.88 | 3.7 | 0.86 | 3.7 | 0.89 | 4.0 | 0.84 |
| 目標を設定し、自ら進んで取り組むことができる。 | 3.8 | 0.91 | 3.8 | 0.96 | 3.8 | 0.92 | 3.9 | 0.84 |
| 問題を発見し、必要な情報を収集・分析・整理し、解決できる。 | 3.9 | 0.81 | 4.0 | 0.80 | 3.8 | 0.85 | 4.0 | 0.72 |
| 獲得した知識・技能を総合的に活用し、課題に適用し、解決できる。 | 3.8 | 0.82 | 3.9 | 0.75 | 3.8 | 0.88 | 4.0 | 0.72 |
| 情報を構造化し、分析・評価・統合し、倫理的に活用できる。 | 3.7 | 0.84 | 3.7 | 0.82 | 3.7 | 0.86 | 3.8 | 0.83 |
| 自然や社会的事象について、様々な表現方法を用いて分析し、他者に伝達できる。 | 3.7 | 0.93 | 3.8 | 0.98 | 3.7 | 0.87 | 3.4 | 1.00 |
| 情報や知識を多角的・論理的に分析し、表現できる。 | 3.7 | 0.88 | 3.8 | 0.86 | 3.6 | 0.88 | 3.7 | 0.92 |
| 既存の知識を活用して、新しい価値(アイデア、生産物、方法等)を生みだせる。 | 3.7 | 0.91 | 3.8 | 0.84 | 3.7 | 0.91 | 3.7 | 1.00 |
| 自分の意見をわかりやすく伝えることができる。 | 3.6 | 1.01 | 3.6 | 1.01 | 3.6 | 1.01 | 3.5 | 1.05 |
| 相手の意見を丁寧に聞くことができる。 | 4.3 | 0.81 | 4.4 | 0.69 | 4.2 | 0.88 | 4.3 | 0.77 |
| 多様なメディアを主体的に利用し、他者と連携できる。 | 3.8 | 0.91 | 3.8 | 1.00 | 3.9 | 0.91 | 3.9 | 0.82 |
| 他者と協調して行動できる。 | 4.2 | 0.85 | 4.3 | 0.68 | 4.1 | 0.91 | 4.2 | 0.88 |
| 他者に目標や方向性を示し、その実現のために行動できる。 | 3.9 | 0.88 | 3.8 | 1.05 | 3.9 | 0.86 | 4.0 | 0.68 |
| 自分と周囲の人々や物事の関係性を理解できる。 | 4.1 | 0.81 | 4.2 | 0.73 | 4.0 | 0.84 | 4.2 | 0.79 |
| 自己の良心及び法規範・社会のルールに従って行動できる。 | 4.1 | 0.82 | 4.3 | 0.80 | 4.1 | 0.85 | 4.3 | 0.73 |
| よりよい社会を実現するために、自らの資質を活かして積極的に社会に関与できる。 | 4.0 | 0.84 | 3.9 | 0.92 | 3.9 | 0.84 | 4.0 | 0.76 |
| 自らを律して行動できる。 | 3.8 | 0.95 | 3.9 | 0.94 | 3.8 | 0.97 | 3.8 | 0.94 |
| 状況や変化に沈着な対応を行い、適正な行動ができる。 | 3.9 | 0.80 | 4.1 | 0.71 | 3.8 | 0.81 | 4.0 | 0.89 |

表2 心理専攻における専門的スキルの記述統計量(n=72)

| | 平均値 | 標準偏差 |
|---------------------------------------|-----|------|
| 統計的なデータを読み取り、科学的根拠を用いて説明できる。 | 3.5 | 1.15 |
| 子どもの多様な発達プロセスを科学的にとらえることができる。 | 4.0 | 0.81 |
| 人の行動や言葉の深い意味を理解できる。 | 3.9 | 0.81 |
| 心理学的な枠組みで人間の心の働きを理解できる。 | 4.0 | 0.83 |
| 行動や感情の自己管理ができる。 | 4.1 | 0.72 |
| 他者の立場に立ち、共感的に理解し関わることができる。 | 3.7 | 0.94 |
| 全体を俯瞰しながら、他者の置かれた状況を的確に判断し、適切な援助ができる。 | 3.9 | 0.81 |
| 他者の立場を理解し、尊重しつつ、自分の意見も主張できる | 4.0 | 0.85 |
| 状況に応じた社会的スキルを身につけている。 | 4.0 | 0.79 |
| 自らの感情や心の状態を理解し、調整することができる。 | 3.9 | 0.95 |

表3 こども保育・教育専攻における専門的スキルの記述統計量(n=131)

| | 平均値 | 標準偏差 |
|-------------------------------|-----|------|
| 子どもの行動に対して、すばやく応じることができる。 | 3.9 | 0.86 |
| 場面に必要な表現ができる。 | 3.5 | 0.93 |
| 月案・週案・保育教育指導案等の計画を作成できる。 | 3.7 | 0.87 |
| 月案・週案・保育教育指導案等の計画に基づいた実践ができる。 | 3.7 | 0.86 |
| 円滑に担当クラスの運営を行える。 | 3.2 | 1.04 |
| 保育・教育に必要な教材を創造・開発できる。 | 3.7 | 0.92 |
| 実践に基づいた正確な記録を作成し、記述できる。 | 3.6 | 0.92 |
| 自身を含めた保育・教育者の実践に対して適正な評価を行える。 | 3.7 | 0.92 |
| 多様な情報を収集し、分析できる。 | 3.7 | 0.89 |
| 子どもの行動を把握し、分析・考察できる。 | 3.5 | 0.90 |
| 子どもの成長・発達に対して適正な評価が行える。 | 3.5 | 0.91 |
| 場面での環境を把握し、場面に求められる環境を作り出せる。 | 3.3 | 0.89 |
| 組織内外の人たちと連携・協業(協働)できる。 | 3.8 | 0.89 |

表4 モチベーション行動科学部における専門的スキルの記述統計量(n=266)

| | 平均値 | 標準偏差 |
|-------------------------------------|-----|------|
| 自分自身を受け入れることができる。 | 3.9 | 0.94 |
| 人間の成長発達を理解できる。 | 4.1 | 0.73 |
| 客観的な視点で人間行動を理解し分析できる。 | 4.2 | 0.74 |
| モチベーションやリーダーシップに関する専門的知識に基づいて行動できる。 | 3.9 | 0.88 |
| 他者を肯定的に理解することができる。 | 4.2 | 0.77 |
| 対人コミュニケーション理論にもとづいたコミュニケーションができる | 4.0 | 0.85 |
| 自分の関わる企業・組織や市場の情報を収集することができる。 | 3.7 | 0.94 |
| 他者に情報を適切に伝達する素材をつくることができる。 | 3.8 | 0.98 |
| 組織のなかで自分の立場を理解し、運営にかかわることができる。 | 3.9 | 0.76 |
| 国内外の社会情勢を理解する広い視野をもつことができる。 | 3.5 | 0.96 |
| 組織経営を円滑化する戦略的な思考ができる。 | 3.5 | 0.94 |
| さまざまな実践経験をもとに地域の人びとと連携できる。 | 3.6 | 0.97 |